

議会広報特別委員会

日 時	令和2年3月24日(火) 閉会中	11時02分 開会 12時30分 閉会
場 所	相良庁舎4階 第3会議室	
出席議員	(委員長) 2番 濱崎一輝	(副委員長) 3番 原口康之
	6番 藤野 守	5番 平口朋彦
	4番 吉田富士雄	1番 鈴木長馬
欠席議員		
法第105条出席		
事 務 局	書記 森田さおり	書記 北原大輔
説明員		

署名 議会広報特別委員長

[午前 11時02分 開会]

開会の宣告

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

それでは、時間になりましたので、ただいまより議会広報特別委員会を開会いたします。

2 事件 (1) 牧之原市議会だより「かけはし」第58号について

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

事件として、最初に1番、「かけはし」第58号についてということで、事務局のほうから説明をお願いいたします。

事務局。

○事務局書記（北原大輔君）

初めにページ割りの最終決定についてということで、先ほど2月定例会のほうを終了をいたしまして、一通り全ての会議が終わったというところでございますけれども、2枚目に比較表という横刷りの資料を添付させていただきました。

こちらの内容につきましては、前回1回目のお出しした内容と変わってはおりませんが、前回、この比較表ですと、6ページから9ページ目までの4ページで、2月定例会の報告ということでページをとらせていただいています。この定例会の報告には、当初予算の連合審査の内容につきましては含んでおりませんが、補正の内容であったりだとか、その他討論であったりだとか、総括的な質疑、本日上程されました附帯決議や追加議案等々も含めまして、全てこの4ページに網羅されるということになりますと、少しページ数が足りないおそれがあるかなというように感じているところでございます。

総括的な質疑におかれましても、今回5名の方が質疑をいたしまして、それぞれ原稿依頼を出しているところでありますけれども、それぞれが例えば150字で書いてきますと、それだけでかなりのページをとってしまうと。なおかつ、附帯決議であったりだとか、修正案であったりだとか、本日上程されました今回補正になりますけれども、そういった補正も含めるとかなりの分量となりますので、少しそのあたりを、ほかのページのところからどう持ってくるのかということも含めて少しご協議いただきたいなというふうに思います。

以上です。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

今説明がありましたけれども、ページの関係ですね。どこか割いていかないといけないかなと思うんですけれども、ご意見のある方は、お願いいたします。

平口委員。

○（平口朋彦君）

今回、コンテンツといったらおかしいんですけど、記事にしないといけないものが非常に多いんですよ。なので、まず、一つのアイディアですよ。記事にしないといけないもの、もちろん総括質疑、今までのレギュラー記事もありますよね、しないといけないものを全て上げていただいて、1ページの半面とか、そういう当たりをまずつけたほうがいいのかなど。コンテンツをまず上げてもらうことはできますか。修正動議、附帯決議、補正予算、質疑・討論とか、どういう形で。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

事務局。

○事務局書記（北原大輔君）

コンテンツということにつきましては、初日からさかのぼっていきますと、初日に総括的な質疑がありました。2日目に通告質疑がありまして、3日目は一般質問になるんですけれども、4日目の一般質問のときに修正案が上程をされまして、修正案においても質疑があり、討論があり、また同時に議員発議もありまして、議員発議のほうでも討論がありました。

その後、連合審査は省略をいたしまして、委員会での質疑が総務と文教。特に文教は質疑が少し多目にありまして、総務のほうは議員間討議のほうが少し多く出たような、きょう委員長報告を聞かせていただきまして、そんなことでしたので、委員会内審査においても少し載せるものがあるかなというふうに考えております。

最後、本日ですけれども、先ほど申し上げましたとおり、附帯決議と追加議案で補正予算の上程があって、なおかつ、介護保険及び国保の来年度予算につきましては討論ということで、そこらは当初予算になりますので、当初予算審査のほうで載せるというのも一つ考えられますけれども、そういったものもあったということでございます。

それぞれのコンテンツを例えばどのように載せていくかということによっても、かなりページで使う範囲が変わってきますので、例えば修正案の内容は載せるにしても、例えば修正案の提出者とか質疑も載せるのかどうか、そういったところによってもかなり変わってきますので、裏を返せば、詳細に載せようと思えば幾らでも載せられると、ページを食おうと思えば幾らでも食えるという状況でありますので、どれだけ各コンテンツを端的に載せていくかというのが一つポイントになるかなというふうに考えております。

以上です。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

今の説明にご意見はありますか。

平口委員。

○（平口朋彦君）

まず、議会である以上、通告制をとっている発言というものは軽んじれないんですよ。なので、討論と通告質疑の部分というのも、やはりきっちりと載っけていかないといけないと思う。省略はできないと思うんですよ。

それともう一つ、修正案。要するに修正動議というのは、議員の期末手当0.05カ月分に関する修正動議なんですけど、修正動議及び0.05カ月分の議員発議は、表裏一体といたらおかしいけど、裏表になるので、これは一つの記事にしちゃって、半面ぐらいでおさめる。ここに関しても討論が出ているので、そこの討論というものは載っけないといけないんですけど、0.05カ月にまつわる記事として修正動議が出ましたよ、議員発議も出ていますよという形の記事にしちゃって、半ページにしちゃうのがいいのかなと思います。

あと附帯決議、補正予算ですね。きょう出た当初予算の1号補正、これも一つ言ってみれば、関連性があるといえば関連性があるので、附帯決議を受けて補正が組まれたわけではないんですけど、一連の流れとして説明し切れるのかなとは思っているので、そこもできれば半ページ。半ページじゃ厳しいのかな、でも半ページぐらいでおさめたいなとは思いますがね。そうすれば何とかおさまるのかなと。そこをぎゅぎゅっと凝縮しないと、今回20ページにはおさまらないのかなと。

あと議員研修会は非常に大事なんですけど、本会議の内容と比べるとどうかというのはありますよね。タブレット端末導入に向けてのお知らせ、こちらのほうは緊急性というか、速報性がそんなに必要ないのであれば、時系列的に議員研修会を次回に持っていくのは厳しいので、タブレット端末導入に向けてのお知らせ、裏面のところを議員研修会にしちゃって1ページ稼ぐというのはどうかかなとは思いますが。ざっくり一案として検討していただければと思います。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

ほかにご意見のある方はいらっしゃいますか。

関連して私のほうから。裏面のところですけども、議員研修会とタブレット導入の関係ですね、これ少しでもいいので、そこのところで裏面でおさまらないかなと思うんですけども、どうですかね、スペース的に。

タブレットのやつも結局出てくるのが5月くらいになってくると、早目に出しておいたほうがいいかなというところがあるので、市民からしてみると、かなりお金をかけた部分でもあるので、早目に告知はしておいたほうがいいかなというのものもありますから、これに関しては少しでも記事を入れておいたほうがいいかなとは思いますが。

○事務局書記（北原大輔君）

裏面のほうに二つの記事を少し載せるとというのは、少し正直厳しいかなというふうには感じております。ただ、他のページの中で例えば半ページあいたとか、そういったところがあれば、先ほどのお話では、タブレットのほうを載せていくとか、そういったことは一つ考えられますので。

ただ、それは、ちょっとレイアウトを組んでみないと、半ページあきができるかどうかというのは少しわからないものですから、何とも言えないところなんですけど、裏面に二つの記事というのは、現状のレイアウトですとちょっと厳しいかなと。一つ一つの記事が薄くなっちゃうので、それだと逆に詳細に出せない部分が出てきちゃいますので、少し厳しいかなというふうに感じています。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

今に関連してですけれども、19ページ、議員研修会で半ページとっていると思うんですけど、ここの部分を半ページ分にしてという形にしたら、ほかのところにもずれ込んでくると思うんですけど、そういう感じにしていけば入れられるのかなと思うんですけども、どうですか。

鈴木長馬委員。

○（鈴木長馬君）

議員研修会を半ページくらいにしちゃうと、記事の内容そのものが深くできないと思うものから、次回に回したほうがいいんじゃないかなと思うんですけど。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

議員研修会を2月にやっているの、その先になっちゃうと8月、9月くらいになっちゃいますね。次回にお願いするとね。

吉田委員。

○（吉田富士雄君）

きょうの補正予算の27号、あれも、タブレットとかよりも、こういった問題のほうが重要じゃないかと思うんだけどね。補正予算の件だけ。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

それはそれで載せますけどね。今話しているのは、1番で話をしたのは、タブレットの関係と議員研修会のところをどうして載せるかというところを話した。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

藤野委員。

○（藤野 守君）

議員研修会ってどういう研修を受けているかって、市民がそんなに関心を強く持つとは思えないんだけどね。これ簡単に載せて報告だけ、そのくらいでいいじゃないかとは思いますが、私もそんな感じです。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

平口委員。

○（平口朋彦君）

結局、優先順位をどうするかという話だと思うんですけど、今回の議員研修会って、例えば定数の問題だったり、また議員報酬の問題だったり、市民と議会とのかかわり方だったり、おもしろい研修ではあったと思うんですね、非常に。それについて何かというわけではないんですけど、今後の議論の中の呼び水にはなるのかなという部分でいえば、今議会が取り組んでいることの一環として、さらりとでも触れておいたほうが絶対いいと思うんですよ。そういった意味でも、講師の先生がおっしゃってくださったことを箇条書き程度にでもまとめる感じで報告をしておけばいいのかなと。そうすると、1ページまでは割かなくても何とかなるかなと。それなら裏のところではめていけるかなというふうには思うんですね。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

すみません、関連してですけど、今裏面はこんな感じになっているんですけど、例えば裏面のところで議員研修会を載つけた場合に、下のところでこんな感じでなっているんですけど、このところをもうちょっと小さくして、タブレットのやつを、言葉だけでもいいので、こんな感じでやっていますよという程度でもいいのかなと。大きく載つけなくても、今導入をやっていますよというのを告知するぐらいのことでもやっておけば、そうすれば、ここに今言ったようなところを載せられれば、19ページはあいてくるものですから、1ページ分、そんな感じにすればいいのかなというふうには考えています。

○（吉田富士雄君）

市民からしてみれば、タブレットはそんなに重要じゃない。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

お金使うんですよ。お金かなり使うので。

藤野委員。

○（藤野 守君）

今、委員長が言った、スケジュールをちょっと小さくする、あれ同じ割合で縮小すれば、そんなにおかしくないわけじゃんね。同じ率で全部を比率を同じ縮小にして小さくすると。それはスペースは出てくるし、おかしくないんじゃないかなというふうに思うんだけどね。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

ちょっとでも記事的にタブレット導入を検討をやっていますよというところら辺でやっておけば、告知という感じでやっておけばいいかなというところなんですけどね。とにかく半ページあけたいなというところで今、話をしているので。

平口委員。

○（平口朋彦君）

一番最後の次回定例会の予定とか見えていますかね、皆。どうなんだろうなと思って。毎回毎回そこセットであって、もちろん、右側の、もっと市議会を知ろう！的のところというのは必要かもしれないけど、それよりも大切な記事があるときは、そこを削っても。毎回毎回同じのがあるんだったら、市民の皆さんには毎回毎回同じことが届いているわけですよ。そうすれば削れるのかなとも思ったりもするんだけど、たまには。黒板チックになって、議会の予定って本当にみんな見ているのかな。すごく思うんですね。何とも判断つかないところではあるんですけど。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

今、藤野議員が言ったように、これ縮小する形で、もっと市議会を知ろう！というのを、傍聴する、動画配信を見る、会議録を見るという太文字だけにしておくとか、細かい説明はもういつも出しているからいらぬとか、あとこちらの日程に関しても縮小する形にすれば、これ半分ぐらいあけば、今言ったように言葉でタブレットの導入を検討していますよというところを入れるかなと思うので、今回ちょっとレア的にやってもどうかなと思うんですけど、副委員長どうですか。

原口委員。

○（原口康之君）

私も、最後の裏面に関しては、議員研修と並べて、内容まで詳しくわからなくても、両方お知らせ程度でも十分、どのくらい皆さんがかけはしをきっちり見ているかという部分はちょっとわからないですけど、お知らせ程度でも僕は伝わるのかなと思うので、そうした感じで最後19ページのあきをつくるという部分ではできるのかなと考えます。

以上です。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

ほかはご意見ありませんか。

では、事務局的に、今言ったような意見で、19ページをあけるためにも、裏面に、ちょっと無理やりになるかもしれませんが、議員研修会のスペースを半分ぐらいとってもらった中で、下のお知らせ、6月定例会、次回のとこ、市議会の個々の関係、それをちょっと小さ目にしてもらって、タブレットのところを言葉だけでもいいので入れるという方向でいきたいと思えますけれども、どうですか。実務的にはできそう。

事務局。

○事務局書記（北原大輔君）

正直、やってみなきゃ何とも言えないところでもありますので、皆さんがそういう意見で、広報委員会としてのそういう意見になりますので、少し対処はしてみたいというふうに思います。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

わかりました。では、ページ割りに関してはそんな形にして、これで半ページ分あくので、ちょっと余裕が出てきたかなと思います。

事務局。

○事務局書記（北原大輔君）

そうしますと、19ページの議員研修会のところを裏表紙に持ってきて、それよりも前のページが一つずつずれていって、2月定例会を4ページから5ページにするということでもいいですね。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

そうですね。

関連して、予算関連記事というところの説明をお願いします。

事務局。

○事務局書記（北原大輔君）

ただいま、2月定例会のところを1ページふやすという話でありましたけれども、まず予算関係記事の前に、討論というのは皆さんから聴取するということがよろしいですか。例えば修正案の討論だとか、補正の討論だとか、議員発議の討論だとか、その辺は全て討論者からいただくということよろしいですかね。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

今までもそれでやっているんですよ。

○事務局書記（北原大輔君）

基本そうですね。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

それでいいと思います。

平口委員。

○（平口朋彦君）

修正案と議員発議の討論で、賛成側って変わらないんだよね、討論内容が。人事院勧告に基づきということなので、一字一句変わらないかということ、それはそれぞれ違いはあるんだけど、議員発議と修正動議の討論で結局何件分あるんだっけ。委員会でもしているよね。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

事務局。

○事務局書記（北原大輔君）

まず、一般会計補正予算に対する討論が、委員会で賛成、反対1名ずつ、本会議場で1名ずつでございます。それに伴う修正案の討論が、賛成、反対1名ずつ。最後に、条例改正の議員発議の討論が、これも賛成、反対1名ずつということで、全て合わせると、賛成、反対4名ずつの討論があったかなというふうに思います。その討論を全て載せるかどうかというようなお話になってこようかと思います。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

平口委員。

○（平口朋彦君）

先ほど、0.05カ月、要するに今回の補正予算のキーポイントって0.05カ月の期末手当だと思うんですよ。ほかにも大事なものはありますけど、一つキーとなるのは、鍵となるのは。その修正案と0.05カ月上げるよという議員発議を一緒にして半ページと言ったけど、討論も載けると半ページじゃ無理だよね。

ただ、一連の流れを、修正案と議員発議はこういう形が出たんだよというところを記事にして半ページにして、その下に各討論を入れれば何とかなるのかな。そうなると、補正予算の0.05カ月だけで1ページとっちゃうということになるよね。でも、1ページとれば、余裕で討論8件分は入るとのことだよね。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

事務局。

○事務局書記（北原大輔君）

そうですね。今お話ありましたとおり、討論は1件150字でありますので、150字掛ける8、1200字になりますので、一般質問が800字ということでしたら1ページ使っていますので、それよりも多い文字数になりますので、それをイメージしていただくと、討論だけで丸々1ページ

使う。写真とかは一切なくして討論のみで1ページぐらいかなと。

ただ、討論だけ載せても内容がわからないと何の討論かもわかりませんので、それに伴うものも考えれば、もし討論を全て載せるとなると、それだけで1ページ使ってしまうかなというふうに考えます。

ただ、これはあくまで個人的な意見も入りますけれども、当然大きな税金でありますので、0.05カ月の引き上げに関しましても重要ではありますがけれども、市民に直結する条例改正とまでは正直言いませんので、そこでどっちに重点を置くか。その他の2月定例会で上程されました条例改正のほうよりもそっちのほうの記事が大きくなってしまいうということについて、どうかというところで、そういった観点からもご協議いただければなというふうに思います。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

平口委員。

○（平口朋彦君）

討論通告制をとっていますので、非常に討論というのは議場での発言としては格がすごい上の発言です。それなので、今回は議員発議修正動議にまつわる補正予算の議上での討論のみにして、委員会の討論は全くオミットする。補正予算は委員会で行っているよね。議場で修正を出した側の討論と補正を可決する側の討論とあるよね。それ一つずつですれば、あと修正動議はこういうのが出た。逆に言うと、議員発議はこういうのが出たという記事と丸めて半ページにならない。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

事務局。

○事務局書記（北原大輔君）

討論を2件ずつにするという。

○（平口朋彦君）

1件でいい。

○事務局書記（北原大輔君）

1件ずつ。発議とか修正とかはなしにして、それを一くくりの記事として、討論を1件ずつ載せるということですかね。それだったら半ページぐらいにはおさまるかなというふうに思います。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

平口委員。

○（平口朋彦君）

修正動機に対する賛成討論があった。補正原案に対する賛成討論があった。その賛成討論1件ずつでいいのかな。補正予算原案に対する賛成討論と、修正動議に対する賛成討論と、論点は一緒だと思うのね。0.05カ月をどうするかという論点なので、1件ずつにすれば何とかなるのかな。ほかに違った切り口で討論をしていけばいいんですけど、切り口は一緒なのかなと思うんですよ。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

ほかにご意見はありますか。

どっちにしてもページが限られているものですから、ある程度今のたたき台をつくってもらった中で、それで当然ページに入らないのも出てくると思うものですから、記事を書いてもらっても、全員が全員載せられないよというのを前提で書いてもらってもいいのかなと思いますけれども、いかがですか。

過去にも、記事を書いてもらったのを載っていないのがあるよね。記事を書いてもらっても議会だよりも載っていないのってあるよね。であれば、一通り記事をつくってもらった中でレイアウトを組みながらやっていく。レイアウトしていく中で、もう載せられない記事もあるよというので、それを承知してもらって記事を書いてもらうという形でやっていったらどうかなと思いますけれども、いかがですか。

平口委員。

○（平口朋彦君）

じゃあ、もう決め打ちしちゃって、事務局の方が用意してくださっている予算連合審査会における指摘箇所というのがありますよね。2月定例会補正予算連合審査で、今年度の補正予算のほうね、これのうちから、何件かあるけど何個かやるというのをこれから決めると思うんですけど、それと修正動議、議員発議、討論、この連合審査、全部合わせて1ページ半とか、それにおさめるというふうに決めちゃってする。1ページ半か、1ページか2ページかわからないけど。そうしないと、きょうの決議案と1号補正だけでも1ページ欲しいものね。そこは1ページと決めるんだったら、補正予算に割けるリソース、ページ数を先に決め打ちしないと、たたき台もつukれないのかなとは思うんです。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

事務局。

○事務局書記（北原大輔君）

補正予算につきましては、本日提出されました来年度の第1号補正につきましては、来年度の補正ということで特殊になるものですから、この後お話をさせていただきます今年度の補正予算の審査とは少し別に書く必要があるかなというふうに考えていますので、それは逆に当初予算の審査のほうの後に書かないとおかしくなっちゃいますので、それはまた別で考えてもらう、今年度の補正予算とは別で考えていただく必要があるので、今、平口委員がおっしゃられるように、決め打ちして、例えば今年度の補正で1ページとか、議案に対する質疑で1ページ半とか、決めていただければ、それにあわせてあとは原稿を削るだけですので、いいかなというふうに。

討論につきましては、1点難しいのが、討論のみ署名記事になりますので、名前が載るんですね。何とか議員さんが討論をした、賛成は誰々議員、反対は誰々議員ということで名前が載りますので、討論された議員の方がちゃんと了承した上で削っていただくんだっいたらいいんですけど、一方的に削ってしまって、了承も得ないまま削ってしまうと、やはり討論をされた方は自分の意思を唯一示せる場所ということもあって討論したという意味合いもあるかと思いますので、ちゃんとそこは説明をしていく必要があるかなというふうには考えますけどね。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

平口委員。

○（平口朋彦君）

定例会、全5ページ、一つずつやっていったほうがいいよね。決議、1ページの半ページ分、要は2分の1ページ分、決議が2分の1ページ分ね。きょうの1号補正。1号補正は2分の1もいらぬ。質疑出ているものね。1号補正も2分の1、質疑込みでね。補正予算関係、当初予算の。これがざっくり1ページと2分の1。元年度補正の質疑、討論合わせて1ページと2分の1。これで今2.5だね。2ページと5だよ。

ほかに総括質疑と通告質疑。総括と通告で1ページ。入らぬ。だから逆に言うと、総括も通告も1ページで入らぬんだったら、オミットするかどう。とりあえず総括、質疑はおいておいて、今の1ページはおいておいて、委員会審査。委員会審査って1ページにはつくりゃないよね。つくりゃないけど、委員会の審査にまつわるボリュームを、文教が質疑が多かった。文教の質疑って議案に対する質疑。きょうの委員長報告を聞くと、文教とあと総務の議員間討議の部分で1ページじゃおさまらぬ。

じゃあ、そこ1.5ページにする。各委員会の審査状況を1.5ページにする。それで、総括と通告1.5ページ。これで何ページになる、全部で。1.5、1.5で。

○事務局書記（北原大輔君）

あと1ページ。5ページ半です。

○（平口朋彦君）

これ5ページ半、全部で。ということは、半をどこかで削るしかないね。じゃあ、委員会と総括、通告は境目ないじゃん。そこを2.5ページにすればいいということだよ。そうすれば入るとのことだよ。

きょうやっていただいた特会の討論は、当初予算審査のほうの4ページに入れ込んでしまう。頭の4ページに。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

事務局。

○事務局書記（北原大輔君）

イメージといたしまして、1ページに質疑と答弁が大体5件入るかどうかというところ。写真も入れるとですよ。当然文字だけだったらもっと入るかなと思いますけど、例えば今この補正予算の昨年の記事なんですけど、これだと5件質疑と答弁が入っています。見出しがここにくっついていて、これを除けばもう一件ぐらゐは入るかなというふうに考えますけど、質疑と答弁で100字程度で書いてあると思いますので、5件から6件ぐらゐ入るというふうに考えますと、これはずっと先の話になるんですけど、補正の連合審査の質疑箇所のやつを見ますと、歳入は除いて歳出だけで10件ぐらゐ質疑があるので、この中から、ちょっとわかりにくいのもあるかと思っておりますので、4件ぐらゐ削れば、元年度の補正のところは1ページでいける。そう考えれば、さ

っきのところ半ページ多いよという話でしたので、1ページ減って、ほかが何とか埋まるかなというふうに思いますけどね。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

平口委員。

○（平口朋彦君）

補正予算連合審査会での質疑って、当然通告していないので、発言としては番手が下がるので、全て載せる必要はないと思います。なので、件数を削って、いつもの当初予算の連合審査3日分をぎゅぎゅっと絞るみたいに、この補正も絞れば良いと思う。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

そこで半ページ浮かすと。そんな方向で行きますか。補正の件数を決めれば良いよね。

事務局。

○事務局書記（北原大輔君）

この次の話にもなってくるんですが、どなたがこの原稿を執筆するかというのにもかかわってきますので、討論は基本的に討論者が書くことになるかと思えますけど、きょうのこの広報を待たないと、依頼していいものかどうか少し不明な点がありましたので、討論に関しましてはまだ討論者の方に依頼をしていませんので、もしこれできょう決まれば、討論された方に依頼をかけるんですけども、当初のほうもそうなんですけど、特に当初なんかはかなり大量に質疑箇所がありますので、ここはそれぞれ質疑者にやるというよりは、去年と同様、ある程度広報委員の中で書いていただくというのがベターかなというふうに思いますけどね。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

去年もたしかそうやっているんで、こっち側の補正の関係とかは委員会の中で割り振ってやっていけば、実際に記事が載らなくても文句が出てこないと思うので、討論に関しては直接本人という形で依頼をお願いしたいなと思えますけれども、それでよろしいですか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

そのようにしていきたいと思えます。

補正の関係は、まず割り振りをしていくような形でいいのかな。

事務局。

○事務局書記（北原大輔君）

先ほど申し上げましたとおり、大体5件から6件ぐらいありますので、プラスアルファで少し余裕を見て、6プラス予備が二つぐらいで見えておもらえれば確実かなと思えます。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

補正の関係だと11あるけど、とりあえずこれ適当に割り振りをさせてもらっていいですかね、こちらのほうで。上から順番にという形でいきたいと思えますので。1番の1-1-2というやつを鈴木長馬委員、お願いします。3-1-2、これを平口委員、お願いします。4-1-1、

原口委員、お願いします。4-1-7、私やります。6-1-3、藤野委員、お願いします。7-1-2、吉田委員、お願いします。7-1-2、鈴木長馬委員、お願いします。あれ、つながっているね、これ、一緒に番号。

○事務局書記（北原大輔君）

款項目で表示していますので、同じ款項目が二つある。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

7-1-2のプレミアム商品券のほうを平口委員、お願いします。8-3-4、原口委員。10-1-2、私。11-1-1、藤野委員、ということで記事をつくってもらいたいと思います。

○（鈴木長馬君）

すみません、私、7-1-2と言われたけど。

○事務局書記（北原大輔君）

30万の総額。

○（平口朋彦君）

そのページじゃない。一番前のページ。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

補正。

○（平口朋彦君）

一番上の法人市民税現年課税分と、あと中段ぐらいの商工業振興資金利子補給金30万。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

これ、文字は幾つでやったんだっけ。

○事務局書記（北原大輔君）

100字です。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

100字でお願いします。

一応これ記事を書いてきてもらいますけれども、去年もそうだったんですけれども、載っけられないものも当然出てきますので、出てきた段階でいいよね、選ぶという形で。記事が出てきた段階で、どれを載せるかというのを選んでいきたいと思います。

では、次お願いします。事務局。

○事務局書記（北原大輔君）

続きまして次のページ、裏面からになります。当初予算の連合審査に関しましては、一応全て私のほうで抽出しました質疑箇所になります。当初予算の審査は4ページということでありましてけれども、昨年度、1ページにつき2問から3問ぐらいで載せていくというふうになるならば、大体8問ぐらい。ただ、先ほどの話で介護と国保の討論等もありますので、それも考えるともう少し減るかな、6問、7問ぐらいになるかなというふうにも考えられます。

なお、質疑箇所のほうには特会のほうは載っていないので、もし特会を載せるという場合には、

ちょっとまた抽出しなきゃならないので、少しお時間をいただきたいんですけども。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

これは、多過ぎるので、去年はたしかこれ削除したよね、いらぬのは。

○事務局書記（北原大輔君）

そうですね。去年は、市民に関係が薄いところは削除して行って、削っていったというふうな。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

そうなんだよ。これ大変になってしまうのでね。

平口委員。

○（平口朋彦君）

特会削っちゃうわけにはいかないのかな。特会も質疑が出ている部分は、使う使わないは別として見ておかないといけない。水道は1件か。高齢者なかったよね。国保と介護と水道だよね。それを合わせて今6人いるので、全部で三つずつ原稿をつくって18個、そこから削ってページ数に合わせていく感じがいいのかなとは思いますが。

特会何個あったっけ。国保の質疑何だっけ。委員長覚えていない、国保の質疑。国保1人はあった。多分、副議長だと思う。介護保険は3人あったんだよね。それで水道が1人かな。1人だったかな。

○事務局書記（北原大輔君）

国保は、平口議員と大石議員。

○（平口朋彦君）

2人だ。

○事務局書記（北原大輔君）

後期高齢が大石議員と大井議員。介護が大石議員と平口議員。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

平口委員。

○（平口朋彦君）

私、言っておいてあれだけど、抽出はまだなので、とりあえず使う使わないは別として、一般会計のほうだけでそれぞれ3個分、18個挙げておいて、特会はまた次抽出してもらって、採用するかしないか決めれば。18個あればあれだよね。

○事務局書記（北原大輔君）

半分ぐらい削っちゃうと思うんです。2個でもいいと思うんです。

○（平口朋彦君）

12個。特会で採用しなかったとしても12個でいい。

○事務局書記（北原大輔君）

それぐらい。

○（平口朋彦君）

じゃあ2個にする。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

とりあえずいらなのをまず削るところを先にやっつけていかないといけないと思うんだ。

上から順に見ていきますか。特に市民生活に余り関係ないものというか、全く関係ないということはないんですけども、そういったものを外していきたいと思います。

まず歳入のほうから、1-1-2のところですけども、これはどうですか。歳入のところをざっと見てもらって、これいらなよねというのを言ってもらいたいですけど。いらなるところをまず先に。

○事務局書記（北原大輔君）

暫時休憩にしてもらっていいですか。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

暫時休憩いたします。

[午前 11時52分 休憩]

[午後 12時23分 再開]

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

それでは、会議を再開いたします。

記事に関しましては担当を決めさせていただきましたので、その担当の方で責任を持って期日までに提出をしていただきたいと思います。

2 事件 (2) 視察報告書の様式について

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

続きまして、(2)の視察報告書の様式について、事務局より説明をお願いいたします。
事務局。

○事務局書記（北原大輔君）

2番に移りまして、前回協議いただいた視察報告書なんですけれども、今回、前回いただいた意見を踏まえまして、今年度実施しました文教厚生委員会のものを使用して例としてつくってみましたので、ごらんいただければというふうに思います。

視察報告書として表紙が来まして、次ページ以降に、しおりに記載をいたします各視察先の概要を掲載するようになって、その後から視察研修報告書ということで、それぞれ行った自治体ごとの報告書になっています。これは例ということですので、一つしか報告書が載っていませんけど、実際はこれが委員8人なら8人分それぞれつくということになりますので、もうちょっと厚いものになってくるかなというふうに思います。

もし写真等を載せたい場合につきましては、表紙をめくっていただいたあとの、市の概要の下あたりに、この例でいきますと新潟県の見附市の視察の状況だったりだとか、見附市の風景の状

況であったりだとか、施設の概要だったりというのを載せられれば統一性が図れるかなというふうに思いますので、あくまで視察研修報告書、各個人の議員が書かれる報告書については、写真等は載せないで。

前回フォント等の指定もありましたので、フォントは基本的にはMS明朝、文字サイズは12ポイントということで統一を図らせていただいて載せていくというふうにするかどうかということで、一応事務局のほうで例ということでつくらせていただきましたので、ご確認いただければというふうに思います。

以上です。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

今説明がありましたけれども、これに対してのご意見などはございますでしょうか。

私のほうから1点。写真の関係なんですけれども、今事務局のほうから説明があったように、何もないと寂しいものですから、実際にどんなところか、どんなことをやっているのかという写真は必要だと思うので、これに関しては、例えば事務局のほうで一括して写真を撮ったやつをまとめてもらっているのを載せるという形にしてもらえれば、個々に載せなくてもいいのかなというのがあるので、そんな形にしたらどうかと思いますけれども、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

よろしいですか。

では、事務局。

○事務局書記（北原大輔君）

今、委員長おっしゃられたように、基本的にページをめくっていただいて、市の概要のところにつきましては、しおりに記載する視察先の概要を記載ということですので、事務局が基本的にはしおりのほうを作成いたしますので、そちらのものをそのまま載せるふうになりますので、事務局といたしましても、この報告書に載せる写真も含めて当日撮影をするということで、撮ってくればこっちに載せられるので。最終的に載せたものを委員長に確認をさせていただいて、ホームページ、情報公開コーナーも含めて公開をしていくというような流れになってくるかなというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

平口委員。

○（平口朋彦君）

事務局としてのイメージとして、これ一つでPDFファイル1ファイルにするのか、個別に人それぞれでPDF、要するにクリックできるようにするのか、どういうイメージでいますか。

○議会広報特別委員長（濱崎一輝君）

事務局。

○事務局書記（北原大輔君）

報告書といたしましては、あくまでつづりで報告書というふうなことになりますので、全委員さんを流し通してPDFをとる形になるかと。ですので、概要の以降の視察報告書というところから、それぞれ委員長から順番に、この例でいけば、委員長の見附市、鶴岡市、伊達市の視察報告書がきた次に、副委員長の見附市、鶴岡市、伊達市の報告書が来る。以下それぞれの報告書が来るというような形を想定しています。

○議会広報特別委員長（瀨崎一輝君）

その他、ご意見はございますでしょうか。

鈴木長馬委員。

○（鈴木長馬君）

研修先と研修目的を個々に全部書きちゃうとすごくくどくなっちゃうと思うので、同じ研修だったら代表の人がぱっとやって、そのままでいいかなと思ったんですけど。例えば6人なら6人いて、研修先、研修目的、施設の概要というのを全部個々にしていくと、くどくなっちゃうと思うんですね。

○議会広報特別委員長（瀨崎一輝君）

平口委員。

○（平口朋彦君）

そもそも常任委員会のほうだと1人10万円予算がかかっているわけです。80万かけて、もっと言うと、事務局の人の分も、随行員も合わせると100万かけて行っているわけです。それをただ物見遊山で行かれてはたまったものじゃないよという話で、きちりとした報告をしましょうということなので、そこをダブっても、重複しても。だって、これが言ってみれば10万円の価値の報告書なんだということだっていいと思います、私は。

○議会広報特別委員長（瀨崎一輝君）

事務局。

○事務局書記（北原大輔君）

確にかぶる部分は出てくるかと思いますがけれども、前回委員長もおっしゃったかと思いますがけれども、人それぞれ、視察に行かれて重点を置かれる施策とか、施策と一つで言ってもいろんな細かい事業もあれば大きい事業もありますので、そこで感じる部分が違いますので、恐らく書き方というのも大きく変わってくるかと思いますが、当然かぶる部分はあるにしても、人それぞれ行かれた方の思いの中で書いていただければいいと思いますので、そこは余りかぶるとかかぶらないとかは意識しなくてもいいかなと。目的に関しましても、あくまで、当然委員会として行く目的はあるにしても、個々で感じている部分は違ってきますので、そこは余り意識しなくてもいいかなというふうに感じます。

以上です。

○議会広報特別委員長（瀨崎一輝君）

今の件でご意見はありますでしょうか。

〔「なし」と言う者あり〕

○議会広報特別委員長（瀧崎一輝君）

それでは、この視察報告書に関しては、今回このひな形を参考にしながらということで、早速こちらのほうを使っていければというふうに思っております。

3 その他

○議会広報特別委員長（瀧崎一輝君）

次に、その他になりますけれども、皆さんからご報告、ご連絡などはございますでしょうか。事務局。

○事務局書記（北原大輔君）

最後、その他になりますけれども、本日、年度内最後の広報委員会ということになりますので、先週内示のほうが出まして、私が異動というふうになりましたので、今のところ考えておりますのは、私と入れかわりで来る職員がそのまま広報の主担当になると、森田さんについては副担当になるということで考えておりますので、私のほうも引き継ぎのほうはしっかり行って行って、特に58号については編集作業が進んでおりますので、おくれないように、とにかく発行日までに完全なものが発行できるように引き継いでいくつもりではありますがありますが、今度来られる職員についても初めての経験ということになりますので、むしろ皆さんのほうがわかっているような状況になりますので、皆さんのほうで、また主体的に進めていただければいいかなというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

以上です。

○議会広報特別委員長（瀧崎一輝君）

では、これにて議会広報特別委員会を終了いたします。どうもお疲れさまでした。

〔午後 12時30分 閉会〕